

「在宅医療を支える人のための講演会」開催について

概要

名 称	在宅医療を支える人のための講演会 ～くらしと心を支え、人をつなげる～
日 時	2014年8月23日（土） 13:00～17:30
場 所	沖縄県医師会館
参 加 者	医療・介護に関わる方、他 109名
主 催	沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター 沖縄がん心のケア研究会
共 催	琉球大学医学部附属病院がんセンター 琉球大学医学部附属病院地域医療部
後 援	沖縄県・沖縄県医師会・沖縄県歯科医師会・沖縄県看護協会・沖縄県薬剤師会・沖縄県栄養士会・沖縄県介護支援専門員協会・沖縄県訪問看護ステーション連絡協議会・沖縄県さわやか介護連絡会・沖縄県医療ソーシャルワーカー協会・沖縄県理学療法士協会・沖縄県作業療法士会・沖縄県社会福祉協議会・沖縄県老人保健施設協議会・新老人の会沖縄支部

プログラム

12:30 ～	開場・受付
13:00 ～	開会挨拶：増田昌人（沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター長 琉球大学医学部附属病院がんセンター長）
13:00 ～	講演「命といのち、そして医療」 講 師：佐藤伸彦（ものがたり診療所）
	休憩
14:30 ～	パネルディスカッション 座 長：笹良剛史（医師） パネラー：佐藤伸彦（医師）、喜納美津男（医師）、荷川取尚樹（ケア マネージャー）、宮城愛子（保健師・看護師）、島袋恭子 （医療ソーシャルワーカー） 指定発言：金城隆展（臨床倫理士・倫理コンサルタント）
15:50 ～	閉会挨拶：栗山登至（心のケア研究会世話人代表）
16:00 ～	ケアカフェ（お茶会）

チラシ

沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター、沖縄がん心のケア研究会共同主催

在宅医療を支える人のための講演会

～ 暮らしと心を支え、人をつなげる ～

第一部：13:00～14:20

在宅医療講演会

「命といのち、そして医療」

講師：佐藤伸彦 先生（ものがたり診療所）

医療の中で、生命体としての命と、物語られる人生としてのいのちをどのように考え実践していくかを皆さんと一緒に考える講演会です。

第二部：14:30～15:50

パネルディスカッション

座長：笹良剛史（医師）

パネラー：荷川取尚樹、宮城愛子、島袋恭子
（ケアマネジャー）（保健師・看護師）（医療ソーシャルワーカー）

特別企画：16:00～17:30

在宅医療で大切にしていることをみんなで語る

ケアカフェ（お茶会）自由参加



佐藤 伸彦 先生
（医師・ものがたり診療所）

日時

2014年 8月23日

土

13:00～16:00

参加費無料・事前申込不要

開場：12:30

場所

沖縄県医師会館（南風原町）

対象

医療・介護に関わる方



連絡先：琉球大学医学部附属病院がんセンター（担当：山口）

TEL: 098-895-1374 FAX: 098-895-1497（月～金 9:00-16:00）

共催：琉球大学医学部附属病院がんセンター・琉球大学医学部附属病院地域医療部

後援：沖縄県・沖縄県医師会・沖縄県歯科医師会・沖縄県看護協会・沖縄県薬剤師会・沖縄県栄養士会
沖縄県介護支援専門員協会・沖縄県訪問看護ステーション連絡協議会・沖縄県さわやか介護連絡会
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会・沖縄県理学療法士協会・沖縄県作業療法士会・沖縄県社会福祉協議会
沖縄県老人保健施設協議会・新老人の会沖縄支部

会場の様子

講演会



パネルディスカッション



会場の様子



ケアカフェ



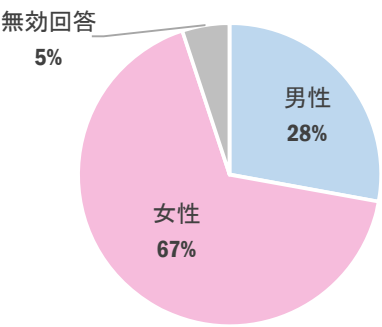
アンケート結果 1

参加者109名（回収率72.5%）

あなたについてお伺いします

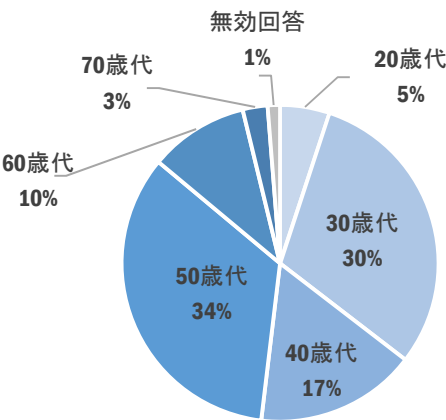
問 1. 性別

	件数	%
男性	22	27.8%
女性	53	67.1%
無効回答	4	5.1%
合計	79	100%



問 2. 年代

	件数	%
20歳代	4	5.1%
30歳代	24	30.4%
40歳代	13	16.5%
50歳代	27	34.2%
60歳代	8	10.1%
70歳代	2	2.5%
無効回答	1	1.3%
合計	79	100%



問 3. 職種

	件数	%
医師	8	10.4%
看護師	29	37.7%
介護士	10	13.0%
看護助手・介護助手	2	2.6%
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	2	2.6%
相談員・ケアマネージャー	14	18.2%
医療・介護事務職員	5	6.5%
その他	8	10.4%
合計	78	101.3%

無効回答 2

n=77

その他 内訳

- ・ 母の介護をしている 1
- ・ 薬剤師 1
- ・ 産業カウンセラー 1
- ・ MSW 1

アンケート結果2

参加者109名（回収率72.5%）

問4. 本日の講演は何で知りましたか

	件数	%
新聞	7	9.1%
チラシ	29	37.7%
知人の紹介	22	28.6%
その他	26	33.8%
合計	84	109.1%

無効回答 2

n=77

知人の紹介 詳細

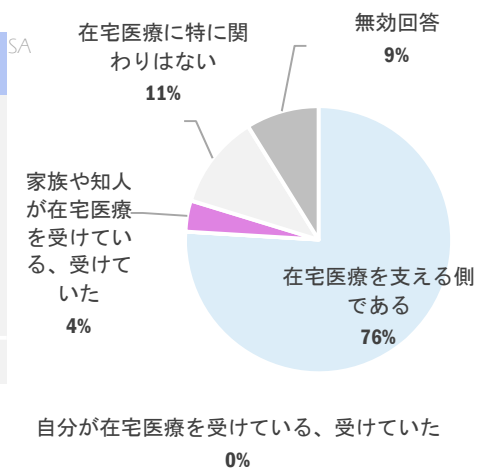
・ Fb	1
・ Drよりアナウンス有り	1
・ 栗山Dr	1
・ 院内告知	1

その他 内訳

・ 職場	4
・ 職場で	1
・ FB	3
・ フェイスブック	1
・ メール	2
・ ラジオ	1
・ 医師の紹介	1
・ FAX	1
・ 病院ポスター	1
・ 病院回覧	1
・ フェイスブックでつながっている方の発信	1
・ 院内回覧資料	1
・ 事務所に案内がきた	1
・ 地域包括支援センター	1

問5. あなたの立場に一番近いもの

	件数	%
在宅医療を支える側である	60	75.9%
自分が在宅医療を受けている、受けていた	0	0.0%
家族や知人が在宅医療を受けている、受けていた	3	3.8%
在宅医療に特に関わりはない	9	11.4%
無効回答	7	8.9%
合計	79	100%



アンケート結果3

参加者109名（回収率72.5%）

講演についてお伺いします

問1. 本日の講演の参加の動機は何ですか

	件数	%	MA
「在宅医療」について興味・関心があったから	66	84.6%	
本日の講師やプログラムの内容にひかれたから	48	61.5%	
参加するよう誘い・指示があったから	9	11.5%	
家族や知人など、身近な人が在宅医療を受けているから	2	2.6%	
その他	1	1.3%	
合計	126	161.5%	

無効回答 1

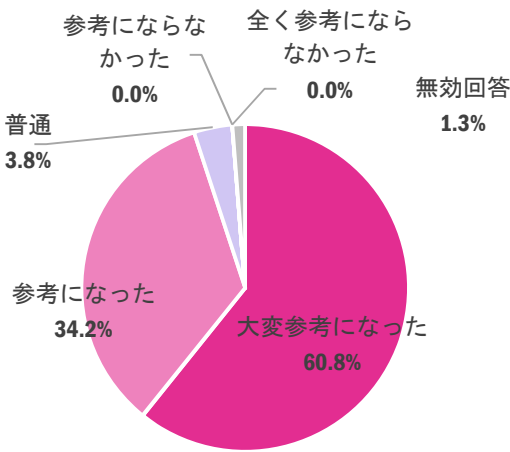
n=78

その他 内訳

・自分も2回ガンを発症しているため、
今後のことを考えたくて。

問2. 本日の講演は参考になりましたか

	件数	%	SA
大変参考になった	48	60.8%	
参考になった	27	34.2%	
普通	3	3.8%	
参考にならなかった	0	0.0%	
全く参考にならなかった	0	0.0%	
無効回答	1	1.3%	
合計	79	100%	

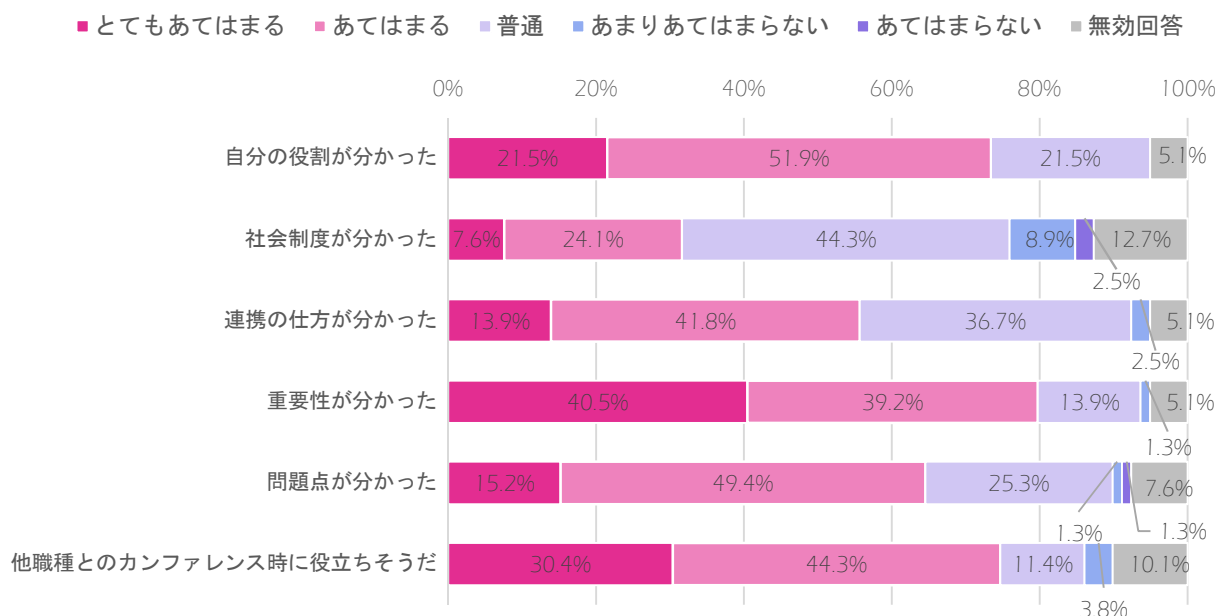


アンケート結果4

参加者109名（回収率72.5%）

問3. 本日の講演を聞いてあてはまるものを選んでください

	とてもあてはまる	あてはまる	普通	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	合計
自分の役割が分かった	17	41	17	0	0	4	79
社会制度が分かった	6	19	35	7	2	10	79
連携の仕方が分かった	11	33	29	2	0	4	79
重要性が分かった	32	31	11	1	0	4	79
問題点が分かった	12	39	20	1	1	6	79
他職種とのカンファレンス時に役立ちそうだ	24	35	9	3	0	8	79



1. 報告書中の「n」は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するのかが示す比率算出の基数となります。2. 複数回答の質問においては、総回答数を回答者数（n）で割った比率を回答割合として示しているため、合計が100%を超える場合があります。グラフの一部では回答数0（0.0%）を省略しているものがあります。3. 結果数値（%）は、四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

アンケート結果5

参加者109名（回収率72.5%）

緑：悩みごと 赤：ご指摘 青：ご要望

問4. 在宅医療・介護を行う上で悩んでいることを教えてください

1. 在宅での看取り。家族を主としたパワーが必要。（男性/30歳代/医師）
2. 本人が在宅を希望しても、家族の介護への理解・不安へのサポートが不十分な気がする。在宅医療を支える施設が地域によって差がある。（女性/40歳代/医師）
3. 他職種連携を密に行っていたとしても、思わぬところ、家族からクレームが出て、クレーム処理のための多大な資料・時間を要することがある。（男性/50歳代/医師）
4. 急性期病院にいるため、在宅、退院、転院へはやくはやくもっていこうという医師、看護師の意識もあり、そこでの関わりがむずかしい。（女性/20歳代/看護師）
5. 治療は終了し退院できる状況ではあるが自宅だけでは患者をみる事ができないという家族が多い。患者の住んでいる地域で安心して見てもらえる病院や診療所への連携がうまくいっていない。またその地域の病院では患者をみれないと拒否されていることもあり退院支援がうまくいかない事がある。（女性/30歳代/看護師）
6. ・他職種（特に医師）との連けい、温度差の違いがありまだまだこれからどのように仲間をふやしていったらいいのか… ・地域住民の関心、在宅医療を知ってもらう事への取り組みを行いたいが、まだ行政とチームを組んで計画段階。（女性/40歳代/看護師）
7. 今日訪問看護をたち上げたばかりなのでこれから多くの研修に参加させて頂き、他ステーションスタッフとの情報交換も行っていきながら今後の業務に携わっていきたい。悩んでいることは今のところありません。（男性/40歳代/看護師）
8. ・本人と家人の意見が違うと、対応時、本人が拒否するとそれ以上介入出来ないが家人は不満を持つ ・家人の介護力が弱い事（本人が家人にたのみず、ヘルパーNsにすべてまかせている） ・ALS進行している為、伝の心等の導入を本人が受け入れてくれない。（女性/50歳代/看護師）
9. カンファレンス以前の、本人、家族をとりまく、連携を早期につくることが必要だと思います。点でつながらない。線でつながる連携が必要です。（女性/50歳代/看護師）
10. 在宅で過ごしたい方たちも今の制度では難しい方もいる。悩んでいてもどこに相談してよいかわからない。県は全例がないと言う。（女性/50歳代/看護師）
11. 在宅医療が療養場所選択に入っていないことが多い。（女性/50歳代/看護師）
12. 在宅医療を受けられる本人のニーズの把握。本人も気付かない。深層まで汲みとれる、受け止めることのできる力量を身に付けたい。（女性/40歳代/相談員・ケアマネージャー）
13. 在宅看取りをひきうけてくれるDrが少なく、病院対応で行うことや、在宅看取りをあきらめた件がある。（女性/50歳代/看護師）
14. 独居、高齢者夫婦の世帯が多く、介護力が弱く、特養にかわる老健入所を希望する方が多い。家族で在宅でみていきたい方がいれば、1人でもかかわっていくことが大切と思っています。又、在宅の訪問診療や24h訪問看護、介護が少ないような気がする。（女性/50歳代/看護師）
15. 訪問診療が義務的になっており、訪問診療→処方のみで終わってしまっている。利用者の状態を細かく聞いてほしい。困っている事を相談しても「うーん」と返事でこれ以上どうしようもないと言われるので、この先どうなるのか心配。一旦、決まった主治医は変更では他に相談に乗ってくれる人がいない。（女性/50歳代/看護師）
16. 本日の講演で言われた「命」と「いのち」の「命」の部分にしか目が向いていない医師が多く協働連携が難しいと感じることが多い医師と看護師のギャップがストレスになっていることも多い。（急性期病院に勤める）若い医療者は在宅医療のイメージもちにくい。（教育の問題？）（女性/50歳代/看護師）
17. 急性期病院の医師は、まだまだ在宅医療に対する関心や知識がなく、患者さん（その人らしさを支える）退院支援が難しい状況です。専門性を追求しすぎ、会人的なケアが出来る医師が少ない。（女性/無回答/看護師）
18. 認知症の高齢者が不穏状態になった場合の対応の仕方がイマイチわからない。（女性/20歳代/介護士）
19. 在宅につなぐ側の医療で悩んでいます。家族の不安と在宅で出来る事をまとめる難しさ…（女性/30歳代/介護士）

アンケート結果6

参加者109名（回収率72.5%）

緑：悩みごと 赤：ご指摘 青：ご要望

-
20. 施設での介護をさせてもらっています。ご家族の方があまりかわりたがらない。（女性/50歳代/介護士）
-
21. 本人の意思を支えることがむづかしい。結局は、家族、ケアする側の意向で、方向性が決まってしまう。本当に本人にとって良かったのか、と考えてしまう。（女性/50歳代/介護士）
-
22. 医療的行為が法律上認定制となってしまう、訪問介護員は登録ヘルパーが主であるだけに、金と時間を払って認定させ難い事業所が多い。病院系の施設においても同様である。（男性/60歳代/介護士）
-
23. 連携（女性/40歳代/理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）
-
24. 急性期病院では在宅や介護を知っている人、知ろうとしてくれる人があまりいません。どのようにきっかけをつくっていくか。（女性/30歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
25. 他職種との連携、関係性等が難しい。（男性/30歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
26. 要介護者の急な入所施設や、入院病院のサービスが乏しい事です。（男性/30歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
27. 在宅医療を勧めたいが行き場所が整っていない状況である。病院に勤務しているが退院調整すると「死ねと言われている」と老々介護が予測される中では勧められない。まさにジレンマの状態である。（女性/50歳代/看護師）
-
28. 急性期HPとの連携（女性/40歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
- ・受診を拒否される方をどのように受診につなげて行くか。・サービスを拒否される高齢者に、アセスメントとしては必要を感じるが、どのようにしてサービスをつなげてゆくか？家族はサービスを利用したい、しかし本人は嫌がる時板ばさみで困る。（女性/50歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
30. 父親の介護を行っているが、主に4人兄弟（妹）で、それぞれの仕事と家族状況、都合の合間を見ながら週計画を立て、子や孫まで含めて協力しながら対応しているが、限界と難しさを感じている。（男性/60歳代/その他）
-
31. 母は102歳で、現在、小規模機能ホームに1週間のうち、5日、2日は帰宅しておりますが、月に1回帰宅時に、月に1回、主治医による在宅医療を受けています。毎日が車イスの生活ですが、いつ、お迎えがくるか分かりません。もしもの時、どう対応することがよいのか、悩んでいます。参考になればと思い参加しました。（男性/70歳代～/その他）
-

問5. 本日の講演に関するご意見ご感想をお聞かせください

-
1. 勉強になりました。ありがとうございました。（男性/30歳代/医師）
-
2. 患者によりそう医療を目標にしています。とても勉強になりました。（女性/30歳代/医師）
-
3. 多職種の意見がきけて良かった。命といのちに関わる身として、自分自身がどう相手と接するのか日々問われている気がします。（女性/40歳代/医師）
-
4. 在宅介護をやりたいと改めて思った。（女性/20歳代/看護師）
-
5. 佐藤先生のお話は涙がとまりませんでした。医師も先生のようにいのちに向きあい頑張っておられる方はいっぱいいらっしゃるのですね。どのように同じ医療関係者に発信していったらいいのかまた、いろいろ勉強して考えてまいりたいと思います。（女性/40歳代/看護師）
-
6. 在宅療養に関わる職種の方の役割が理解できてよかった。（女性/40歳代/看護師）
-
7. ・グリーフケアについて、もう少しききたかったです。・パネルディスカッションでそれぞれの意見の他にもっと具体的に立場の形がみえたらよかったです。（女性/50歳代/看護師）
-
8. ・命といのちの言葉の意味について考える良い機会になった。・地域包括ケアの時代「連携は誰のため？」の抱える問題いつも感じています。行政の方々にもっと現実をわかって欲しい、取り組んで欲しいと思います。その中で私達にできること、チーム医療について改めて考えさせられました。（女性/50歳代/看護師）
-
9. 佐藤先生の講演は、気持ちの整理ができるよい内容でした。よい時間がもてました。（女性/50歳代/看護師）
-

アンケート結果7

参加者109名（回収率72.5%）

緑：悩みごと 赤：ご指摘 青：ご要望

-
10. 最後の笹良先生の「地域包括ケアの時代」の話に興味を持ちました。介護不全→誰の責任？「命といのち」に向き合うことができ良かった。（女性/50歳代/看護師）
-
11. 死というものがもっとと自然に語られる時代になればなと思う。忌み嫌うものではなく、死の教育をする事で生の充実が得られるのでは。子どもたちの教育にとり入れる事はできないか。（女性/50歳代/看護師）
-
12. 先日、テレビ放送で若者の介護（老老介護は良く聞か）10代～20代の若者が両親、祖父母の介護を休学したり退学しながら行っていることを知りました。『ものがたり診療所』のような役割を担う、地域の医師や看護師が増えていくことをのぞみます。さらに、私は何ができるか考えていきたいと思っています。（回りにあるが気がつかない、知らないか？）（女性/50歳代/看護師）
-
13. 日常の中で参考にしたい。（女性/50歳代/看護師）
-
14. 病院から退院させられない、介護力の無い家が多い為、在宅に結びつかない中間施設はお金がかかる。在宅はどのように展開していけるのか。佐藤Drのいる理想的な施設は少ない。でも、自分なりの死生感をもって後悔しない生き方をしようと思いました。ケアカンファの方法は良いと思います。資料を前もって作ってくれていけばケアの必要性考えてから参加出来るので有意義です。（女性/50歳代/看護師）
-
15. 在宅医療、いろいろ問題があると思いますが、自分が病気になったら在宅医療ですごしたいと思いました。（女性/30歳代/介護士）
-
16. パネルディスカッション（事例検討）が中途半端な感じで残念だった。（女性/50歳代/介護士）
-
17. 高齢者の生きてきた道、とても大切な事だと感じています。今、今日もその気持ちで参加させてもらいました。とてもよく理解できる講演会でした。ありがとうございました。（女性/50歳代/介護士）
-
18. とてもいい講演ありがとうございました。患者さんがどのように生きていきたいか、最後まで関わりたいと思うのですが、リハビリだとなかなか最後まで関わるのが少ないです。（最後だから、リハはなくていいでしょう…。今はリハビリじゃないでしょうとのことでDrストップがかかるため…。）いつかチームとして最後まで関われる日が来ることを信じて日々頑張っていこうと思います。ありがとうございました。（女性/30歳代/理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）
-
19. 講演会、パネルディスカッションともにとても良かったです。（女性/40歳代/理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）
-
20. 他職種の連携を参加が強く感じている事がわかりました。（男性/30歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
21. 介護支援専門員には、同業者として、落胆した。事例に対するニーズを考えていない。介護支援専門員としての「質」を問いたい。訪問介護師の意見が、とても参考になった。患者（利用者）のことをよく考えられている。いろいろなニーズに応えられるように、多くのことを予想している。どのような場面でも安心して任せられる。（女性/40歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
22. 会場との意見交換の時間がもっとあったらよかったと思います。（女性/40歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
23. ・私も自分の末期は「ものがたり診療所」のとなりのアパートへ入居させてほしいと思いました。沖縄にもつくってくださらないでしょうか？・室内が寒かった。（女性/50歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
24. 時間が無い…。様子が全体に問われ、「ディスカッション」ができない状況であった。負けずに患者・家族を支援したいと思います…。本日はありがとうございました。（女性/50歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
25. その人の人となりを知る事が重要。その人に対し、何をすべきか。本気になって関わる事が大切であると痛感しました。（男性/30歳代/医療・介護事務職員）
-
26. ”平穏死・満足死・良い死なのかどうか問う必要はない”というのは、正にそうだと思います。我々医療者はつい”良い死”を目指そうとしがちです。真摯にその人に向きあう先生だからこそ言えると思いました。在宅医療の魅力をとても感じました。とても勉強になりそして励みになりました。ありがとうございました。（女性/30歳代/その他）
-
27. 佐藤先生のお話、とても良かったです。葛藤しながら日々働いていて、あーあ、と感じることもたくさんありますが、自分自身の生き方として、明日また、仕事がんばろうとエネルギーの注入できました。ありがとうございました。（女性/30歳代/その他）
-

アンケート結果8

参加者109名（回収率72.5%）

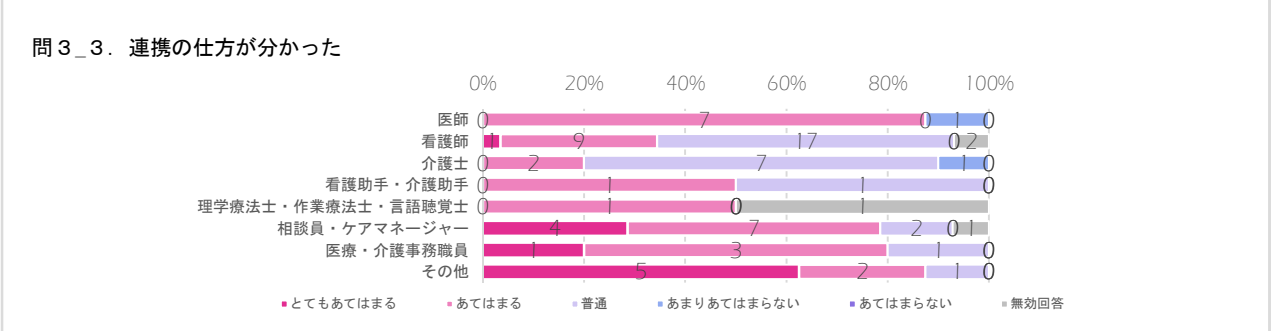
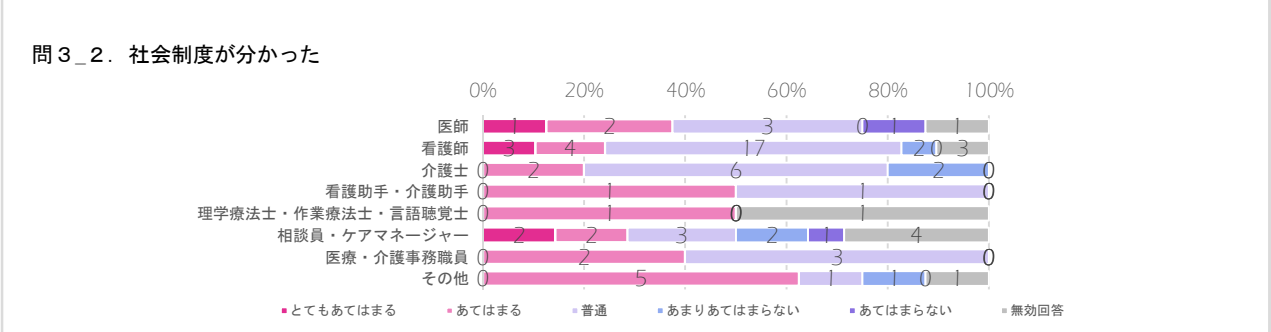
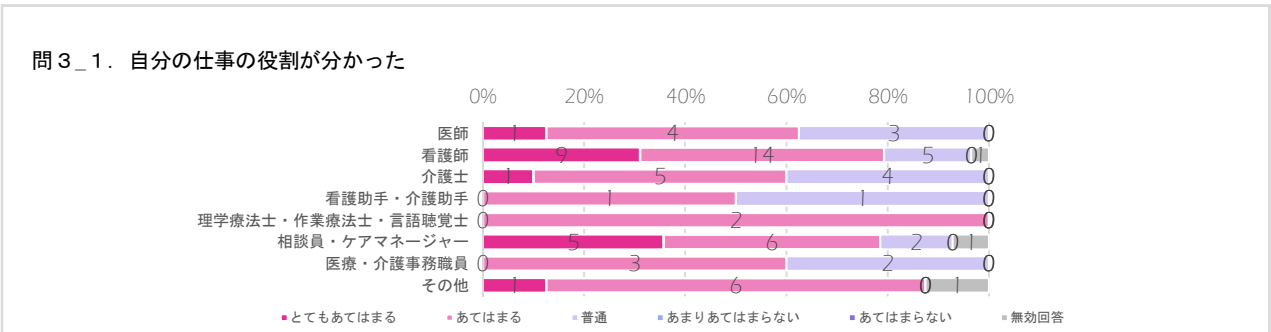
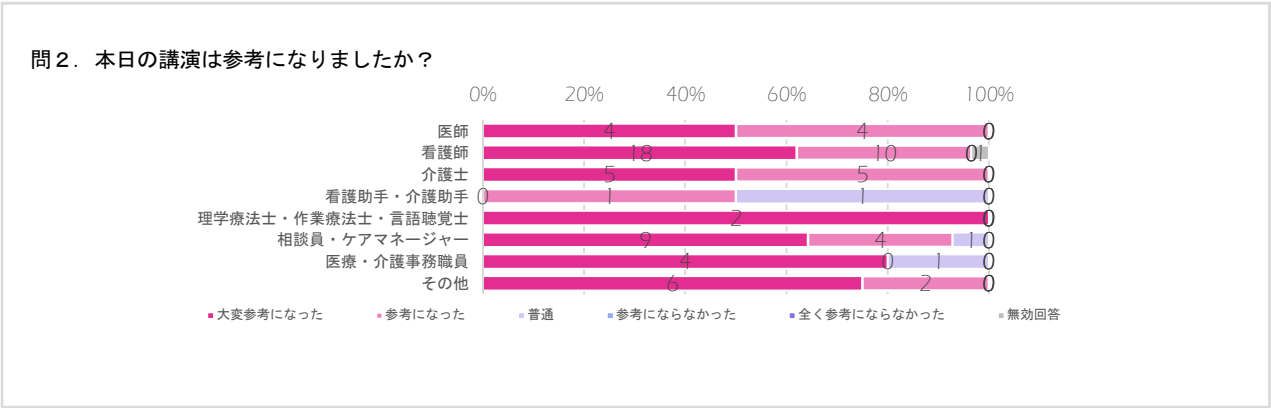
緑：悩みごと 赤：ご指摘 青：ご要望

-
28. とてもためになるお話ありがとうございました。今後の両親や家族の介護に役立てたいと思います。（女性/50歳代/その他）
-
29. 親（88歳）の週末介護のあり方、これからの対応方法で、かなり参考になりました。（男性/60歳代/その他）
-
30. ・参考になることが色々ありました。・ケアカンファレンスが大切だということをあらためて理解できました。（男性/70歳代~/その他）
-
31. 多くのこと「死」について考える機会を与えてもらった有意義な講演でした。（男性/70歳代~/無回答）
-
32. 佐藤先生の講演を聞いて、改めてやっていることの確信できました。入院した時から、いつも退院目標を決めて、日頃やっている行動が良かったと思いました。有りがとうございます。（無効回答/40歳代/無回答）
-

問6. 今後講演会で取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください

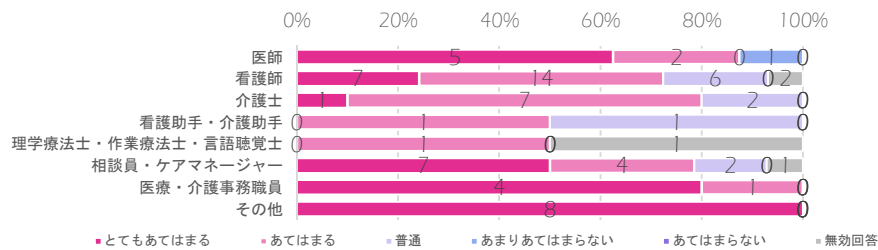
-
1. 病院連携者職員がお互いに交流できる講演会（女性/50歳代/看護師）
-
2. 医師会で勤務医向けにこのような講演があると、少しずつ在宅医療に関心もってくれるのでは…早めに退院支援を始めたくても、主治医が拒否すること多い。退院が決まってからの調整になる。（まだ治療中で退院も決まっていないのに…）（女性/50歳代/看護師）
-
3. 死の教育について（女性/50歳代/看護師）
-
4. 地域統括相談支援センター←もっと相談しやすいセンター名にしたらいのに…。医学部らしい上から目線のようセンター名と思う。（女性/50歳代/看護師）
-
5. 緩和ケア（非ガン疾患、高齢者）（女性/50歳代/介護士）
-
6. 地域包括ケア（女性/40歳代/理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）
-
7. 介護職員や家族向けのテーマで。（男性/30歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
8. 在宅医療を支える人たちの顔が見えるような講義（グループワークなど）実際の現場で他職種連携に繋がるような研修。（女性/40歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
9. 自己カウンセリングについて（女性/50歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
10. 毎回いいテーマとりあげて頂いています。ありがとうございます！（女性/30歳代/その他）
-
11. 上記にも関連して、やはり、家族（他人では看られない）での、週末介護、看護が大切ではあるが、現実てきには限界（経済的、物理的、業務（仕事）的etc）があり、各兄弟（妹）の家族的対応能力のバランス的対応能力差もある。それ等を含めた、総合的講演を希望。（男性/60歳代/その他）
-
12. 在宅医療を支える人のためのテーマは色々あると思います。ありがとうございました。（男性/70歳代~/その他）
-
13. 「いのち」に関して考える医師の養成教育について（男性/70歳代~/無回答）
-

アンケート結果（参考１：職種別）参加者１０９名（回収率７２.５％）

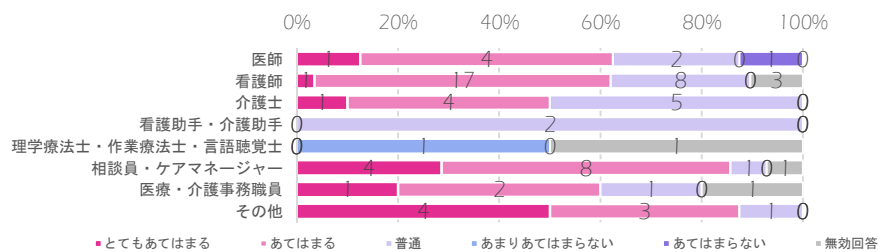


アンケート結果（参考2：職種別）参加者109名（回収率72.5%）

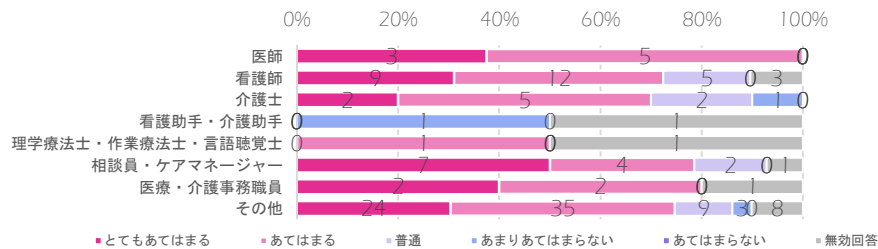
問3_4. 重要性が分かった



問3_5. 問題点が分かった



問3_6. 他職種とのカンファレンス時に役立ちそう



新聞掲載記事

沖縄タイムス 第23545号
2014年 8月24日(日) 26面

終末医療の実践 佐藤医師が紹介

在宅医療で講演

「在宅医療を支える人のための講演会」が23日、南風原町内で開かれた。ものごたりの診療所（富山県）の佐藤伸彦所長が「命といのち、そして医療」をテーマに講演した。患者が生きてきた「物語」を大切にすると高齢者の終末期医療への実践を紹介。家族とつくり上げる最期の時まで、生きている人々を支える大切さを語った。

看護師やケアマネジャーなど医療・介護に関わる100人余が参加した。24日は午後1時30分から2時45分まで、佐藤所長の一般向けセミナーが南風原町の県医師会館で開かれる。参加費無料。

琉球新報 第37940号
2014年 8月29日(金) 24面

命を支える関わり方を 南風原で在宅医療講演会

医療・介護関係者を対象とする「在宅医療を支える人のための講演会」が23日、南風原町新川の県医師会館で開かれた。約100人が来場した。富山県砺波市にある「ものごたりの診療所」所長の佐藤伸彦さんが、高齢者の終末期医療をテーマに講演した。県内終末期の患者とその家族

医療・介護関係者を対象とする「在宅医療を支える人のための講演会」が23日、南風原町新川の県医師会館で開かれた。約100人が来場した。富山県砺波市にある「ものごたりの診療所」所長の佐藤伸彦さんが、高齢者の終末期医療をテーマに講演した。県内終末期の患者とその家族



の過ごし方を写真で紹介しながら「死をコーディネートするのではなく、生命を支えることが大事だ」と患者とその家族が長い最期を迎えるために必要な医療従事者の姿勢を語った。

パネル討論では具体的な事例を基に、在宅での医療、介護、福祉の質の向上について話し合った。

パネルリストは患者が在宅で安心して過ごすために、それぞれの職種の役割について説明した。この中では、実際に顔を合わせる機会が少ないなどの理由で、在宅医療に不可欠な「多職種連携」が進んでいない現状も指摘した。

「多職種連携」が進んでいない現状も指摘した。

「在宅医療セミナー この街で最期まで暮らしたい～支える医療の実践～」 開催について

概要

名 称	在宅医療セミナー この街で最期まで暮らしたい ～支える医療の実践～
日 時	2014年8月24日（日） 13:30～14:45
場 所	沖縄県医師会館
参 加 者	医療・介護に関わる方、他 54名
主 催	沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター
共 催	琉球大学医学部附属病院がんセンター
後 援	沖縄県・沖縄県医師会・沖縄県歯科医師会・沖縄県看護協会・沖縄県薬剤師会・沖縄県栄養士会・沖縄県介護支援専門員協会・沖縄県訪問看護ステーション連絡協議会・沖縄県さわやか介護連絡会・沖縄県医療ソーシャルワーカー協会・沖縄県理学療法士協会・沖縄県作業療法士会・沖縄県社会福祉協議会・沖縄県老人保健施設協議会・新老人の会沖縄支部

プログラム

13:00 ～	開場・受付
13:30 ～	開会挨拶：荷川取尚樹 (沖縄県在宅医療人材育成事業検討委員会委員長)
13:30 ～	講演「この街で最期まで暮らしたい ～支える医療の実践～」 講 師：佐藤伸彦（ものがたり診療所）
14:30 ～	質疑応答
14:45 ～	閉会挨拶：増田昌人 (沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター長 琉球大学医学部附属病院がんセンター長)

チラシ

講師
佐藤 伸彦 先生



講師プロフィール：
昭和33年東京生まれ。国立富山大学薬学部卒業後、同大学医学部卒業。成田赤十字病院内科、飯塚病院神経内科などを経て、富山県砺波市砺波サンシャイン病院で副院長として、高齢者医療にかかわる。市立砺波総合病院地域総合診療科部長、外来診療部内科部長を経て、平成21年4月に医療法人社団ナラティブホームを立ち上げ、平成22年4月1日に「ものがたり診療所」を砺波市でオープン。同診療所の所長を務める。

2014年
日時 **8月24日（日）**
13:30 ~ 14:45 (開場 13:00)

場所 **沖縄県医師会館**
南風原町字新川218-9



参加費無料・申込不要

連絡先：琉球大学医学部附属病院がんセンター（担当：山口）
TEL: 098-895-1374 FAX: 098-895-1497 (月~金 9:00-16:00)

主催：沖縄県在宅医療人材育成・質の向上センター
共催：琉球大学医学部附属病院がんセンター

後援：沖縄県・沖縄県医師会・沖縄県歯科医師会・沖縄県看護協会・沖縄県薬剤師会・沖縄県栄養士会
沖縄県介護支援専門員協会・沖縄県訪問看護ステーション連絡協議会・沖縄県さやか介護連絡会
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会・沖縄県理学療法士協会・沖縄県作業療法士会・沖縄県社会福祉協議会
沖縄県老人保健施設協議会・新老人の会沖縄支部

在宅医療セミナー

この街で最期まで暮らしたい

— 支える医療の実践！ —

会場の様子

講演会



会場の様子



質疑応答



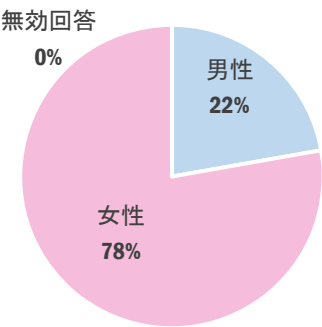
アンケート結果 1

参加者54名（回収率83.3%）

あなたについてお伺いします

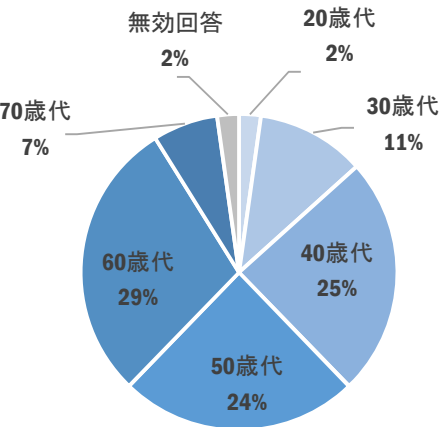
問 1. 性別

	件数	%
男性	10	22.2%
女性	35	77.8%
無効回答	0	0.0%
合計	45	100%



問 2. 年代

	件数	%
20歳代	1	2.2%
30歳代	5	11.1%
40歳代	11	24.4%
50歳代	11	24.4%
60歳代	13	28.9%
70歳代	3	6.7%
無効回答	1	2.2%
合計	45	100%



問 3. 職種

	件数	%
医師	3	6.7%
看護師	15	33.3%
介護士	4	8.9%
看護助手・介護助手	2	4.4%
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	3	6.7%
相談員・ケアマネージャー	5	11.1%
医療・介護事務職員	2	4.4%
その他	15	33.3%
合計	49	108.9%

無効回答 0

n=45

その他 内訳

・主婦	3
・一般	2
・一般、無職	1
・自営業	1
・専門学校講師	1
・会社経営 デイサービス	1
・金融機関	1
・無職	1
・学生	1

アンケート結果2

参加者54名（回収率83.3%）

問4. 本日の講演は何で知りましたか

	件数	%
新聞	9	20.0%
チラシ	17	37.8%
知人の紹介	17	37.8%
その他	5	11.1%
合計	48	106.7%

無効回答 0

n=45

その他内訳

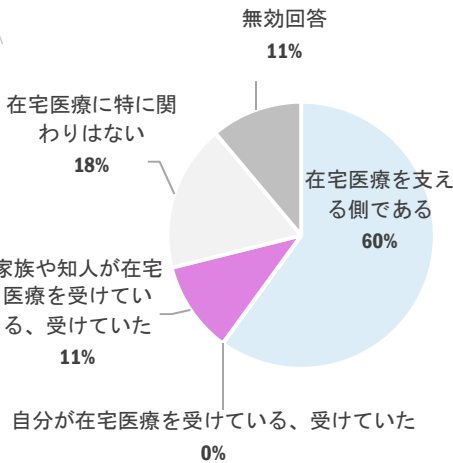
- ・フェイスブック
- ・ラジオ
- ・院内での情報
- ・医師会
- ・首里城下町クリニック講演会で

知人の紹介 詳細

- ・ 山口元子さん
- ・ 山口さん
- ・ 関係者
- ・ 父
- ・ 看護部長
- ・ 笹良先生より
- ・ 医療関係者
- ・ 長男
- ・ 兄

問5. あなたの立場に一番近いもの

	件数	%
在宅医療を支える側である	27	60.0%
自分が在宅医療を受けている、受けていた	0	0.0%
家族や知人が在宅医療を受けている、受けていた	5	11.1%
在宅医療に特に関わりはない	8	17.8%
無効回答	5	11.1%
合計	45	100%



アンケート結果3

参加者54名（回収率83.3%）

講演についてお伺いします

問1. 本日の講演の参加の動機は何ですか

	件数	%	MA
「在宅医療」について興味・関心があったから	42	93.3%	
本日の講師やプログラムの内容にひかれたから	24	53.3%	
参加するよう誘い・指示があったから	6	13.3%	
家族や知人など、身近な人が在宅医療を受けているから	2	4.4%	
その他	5	11.1%	
合計	79	175.6%	

無効回答 0

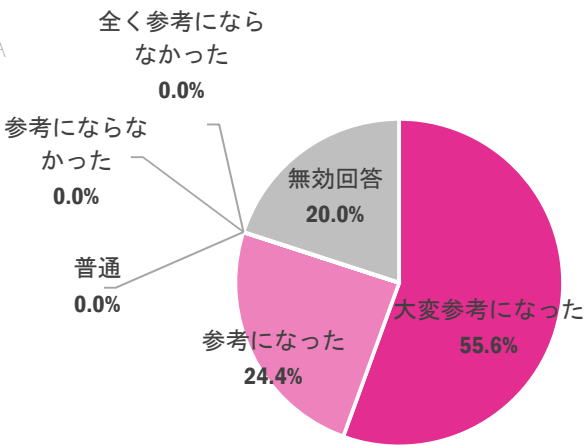
n=45

その他 内訳

- ・高齢者1人あるいは高齢者夫婦の多い島の病院で勤めていて、なかなか在宅で看取することができない。病院（島内）で看取することに今は尽力している。島外施設で最期を迎える症例をへらしたい。自分の役割を学びたい。参考にしたい。
- ・関心あったので
- ・身近な人が在宅医療が将来受けたいと希望有るから
- ・サ高住の運営にあたり、是非必要な課題と覆ったから...
- ・ターミナルケアを地域で実践していきたい。

問2. 本日の講演は参考になりましたか

	件数	%	SA
大変参考になった	25	55.6%	
参考になった	11	24.4%	
普通	0	0.0%	
参考にならなかった	0	0.0%	
全く参考にならなかった	0	0.0%	
無効回答	9	20.0%	
合計	45	100%	



1. 報告書中の「n」は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するの比率算出の基数となります。2. 複数回答の質問においては、総回答数を回答者数（n）で割った比率を回答割合として示しているため、合計が100%を超える場合があります。グラフの一部では回答数0（0.0%）を省略しているものがあります。3. 結果数値（%）は、四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

アンケート結果4

参加者54名（回収率83.3%）

緑：悩みごと 赤：ご指摘 青：ご要望

問3. 本日の講演に関するご意見ご感想をお聞かせください

1. とても勉強になりました。ありがとうございます。（男性/50歳代/医師）

2. **死がせまっている患者さんと接する時、何ができるのか**と悩むことが多かったですが、特別なことを求められているのではなく、他の人と変わりなく、生きる過程を支えていくことが大切なことだということを学びました。（女性/30歳代/看護師）

3. ”看取る”というのは、医療者（介護者）側の見方だと感じました。周囲の医療者が”死の瞬間まで生を支える”という思いをもつことが大切だと感じました。（女性/40歳代/看護師）

4. 昨日に引き続きでしたが、大変良かったです。涙がとまりませんでした。（女性/40歳代/看護師）

5. とても良い講演でした。時間制限があり残念です。もう少し詳しく、御話しして頂ければと感じました。（女性/40歳代/看護師）

6. 当院看護部理念の第一に「手をかけ、目をかけ、ことばかけ」をおいています。手をかけ（手あて）、いのちであて、私の心につよく残っています。自分の役割を果たしていきたい。（女性/40歳代/看護師）

7. 大変関心しました。心あたったかとお話をありがとうございました。（女性/40歳代/看護師）

8. てあて、大事なこころの通う、テーマであり、ひかれました。又、お話を他の方へも聞かせていただけたらと思います。（女性/50歳代/看護師）

9. とても良い取組されていて良いと思う。最期迄、支える側に、務めていきたい。ありのままの看取りをめざします。（女性/50歳代/看護師）

10. やり残したこと、言い残したこと、食べ残したものはないか、看取り「死」という考えではなく、最期で「生」を支えることに感動しました。ありがとうございました。感謝します。（女性/50歳代/看護師）

11. 在宅で看取り方に「もっと何かできる事はなかったか？」と度々、無力感におちいることもあったのですが、今日の講演での「死の直前まで生きている人を支えているだけのこと」という言葉が腑におちました。（女性/50歳代/看護師）

12. 地域にこういう素敵な病院（施設）があれば、安心して在宅すごせるなあ。（女性/50歳代/看護師）

13. 本人が在宅で死にたいと思っていても、やはりFaの介護力やどうしたいのか決定できない場合、本人を中心にFaが希望していることを支援できたら良いなあと感じ思いました。（女性/50歳代/看護師）

14. 看取るという視点から、最後の生まで支える、傍にいて、という環境が大切だと感じた。（女性/60歳代/看護師）

15. 自分の人生は自分で決めるべきだと思いました。その人の想いに答えてあげるべきだと思います。人の死から学ぶ事はあると私も考えています。その人が生きた証を大切にしたい。（女性/30歳代/介護士）

16. 色々考えさせられる事がありました。また来ます。（女性/30歳代/介護士）

17. 死の直前まで支える医療。思いを受けとめる。改めて講演をきき、参考にし、今後の身のふり方を考えていきたい。勉強になりました。（女性/40歳代/介護士）

18. **生命といのち、もう少し（勉強）知りたかった。聞きたかった。**「最後のいのちを支えていく」気持ちでがんばります。（男性/60歳代/介護士）

19. 講演ありがとうございました。これからの御活躍期待しています。ありがとうございました。（女性/30歳代/理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）

20. 死について考えさせられました。とても良かったです。ありがとうございました。（男性/40歳代/理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）

21. ナラティブホームのような医療機関がもっと多く（身近に）あればいいなと思いました。（男性/50歳代/理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）

22. **もっと時間をかけて聞きたかった**です。（男性/40歳代/相談員・ケアマネージャー）

アンケート結果5

参加者54名（回収率83.3%）

緑：悩みごと 赤：ご指摘 青：ご要望

-
- 23 「命といのち」すごく、しっかりと受け入れられました。胃ろうの考え方が変わりました。（女性/40歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
- 24 やり残したこと、言い残したことを聞いて、実現できようようにしていけるよう支援することが大切だと感じました。（女性/40歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
- 25 「いのち」を大事にする実践をされている先生のお話を聞き、あらためて、親の「いのち」の声に耳を傾けてみたいと思いました。（女性/60歳代/相談員・ケアマネージャー）
-
- 26 ”やり残したことは、ないのか” これを話題にして、看護していきたいと思います。（女性/20歳代/その他）
-
- 27 ①何となくイメージでしか持っていなかった在宅医療の実践や現状についてある程度イメージを持つことができました。②「いのち」の大切さを学ぶことができました。③死の直前まで「生」ということを改めて理解することができました。（男性/50歳代/その他）
-
- 28 とても良い話がお聞きできました。（女性/50歳代/その他）
-
- 29 沖縄県内での在宅医療の現場がどうなっているのか知るきっかけになりました。（男性/60歳代/その他）
-
- 30 日頃の実践を通して先生が得たもの、大変勉強になりました。我々は尊厳死、満足死を目指しているのではない、ぎりぎりまでの生を支えているのだ。胸に落ちることばで、これからの生き方や親の介護に対しても自信と勇気を得るものでした。ありがとうございます。（女性/60歳代/その他）
-
- 31 て・あ・て ⇒ てをあてる ⇒ 心にひびく言をいただきました。ありがとうございます。（女性/60歳代/その他）
-
- 32 もう少し時間があればと思いました。もっと多くの人に講演を聞いてほしいと思います。（女性/60歳代/その他）
-
- 33 大変わかりやすい講演でした。次の講演をたのしみにしたいです。（女性/60歳代/その他）
-
- 34 週末ケア（在宅）は大切だと実感しました。※延命治療は望みません。（男性/70歳代～/その他）
-
- 35 寝たきりにならない様にしないといけないうあって感じました。（女性/70歳代～/その他）
-
- 36 地域医療に従事したいと考えている私にとってとても刺激になりました。（女性/無効回答/その他）
-

問4. 今後講演会で取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください

-
1. 地域住民への啓発・在宅ケアへの意識の改革セミナー（女性/50歳代/看護師）
-
2. 効果的な信頼のとり方とは（女性/60歳代/看護師）
-
3. 在宅医療をしている家族の体験談（女性/30歳代/介護士）
-
4. 実践報告をもっと聞きたいです。（男性/60歳代/介護士）
-
5. 色々な立場（PT, ST, ケアマネージャー等）の方々にその立場での経験や思いを講演のテーマにしてほしい。（男性/50歳代/その他）
-
6. 「がん」の告知について（女性/60歳代/その他）
-
7. 又、佐藤先生の講演、お願いします。大きな会場で、もっと宣伝してください。もっと多くの人に聞いて欲しいです。（女性/60歳代/その他）
-
8. お任せします。（男性/70歳代～/その他）
-
9. 他職種機能をテーマに、地域に広がる講演をもっともっとお願いしたいと思います。（女性/70歳代～/その他）
-

アンケート結果（参考：職種別）

参加者54名（回収率83.3%）

